准教授　**村　和明**　　MURA, Kazuaki

1.　略歴

2002 年 3 月　東京大学文学部歴史文化学科（日本史学専修課程）卒業
2005 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻（日本史学）修士課程修了
2009 年 4 月　財団法人三井文庫契約研究員
2010 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻（日本史学）博士課程修了
2010 年 3 月　博士（文学）学位取得
2010 年 4 月　公益財団法人三井文庫研究員
2015 年 7 月　公益財団法人三井文庫主任研究員
2018 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科　准教授

2.　主な研究活動

a　専門分野

日本近世史

b　研究課題

近世の天皇・朝廷の研究、近世都市豪商の研究

c　概要と自己評価

数年来参加してきたジェンダー史、気候変動、豪商廣岡家についての共同研究の成果を発表し始めた。特にジェンダー史については、2016 年に共同研究に加わって始めたテーマであったが、ようやく成果が出始めた。日本近世史ではほとんど取り組まれていない男性史の視点をとることで、従来ほぼ注目されていない巨大都市の男性集団と女性集団の共生を見出し、遊廓研究、商家研究、都市社会史研究などにおいても意味のある問題提起ができつつあると考えている。新型コロナ感染症蔓延にともない、新たな史料を探して研究を進めることが著しく困難となり、従来進めてきた朝廷・三井家の史料による研究成果の一部を発表、あるいは依頼されたテーマで元々気になっていた事例を紹介することが中心となった。全体に限界のある状況下でまとめた、雑多な成果が多くなった感があるが、新たな史料に接する機会が激減した分、先行研究と向き合い、課題の所在と今後の研究計画を再考する機会が増えた。また新型コロナ感染症拡大の影響で、オンラインでの学会・研究会が増えたことで、シンポジウムにおけるコメントを依頼される機会が増え、従来研究してきた、あるいは関心をもってきたテーマについて研究状況を確認する機会となった。

d　主要業績

⑴　著書

共著、福田千鶴・藤実久美子編、『近世日記の世界』、ミネルヴァ書房、2022.3
共著、鎌谷かおる・渡辺浩一・中塚武編、『気候変動から近世をみなおす : 数量・システム・技術』、臨川書店、2020.11

⑵　論文

村和明、「一八世紀の三井における印判 : 個人と印判の分離を中心に」、『日本歴史』884、51-58 頁、2022.1

⑶　書評

村和明、「髙木まどか著『近世の遊廓と客 : 遊女評判記にみる作法と慣習』」、『総合女性史研究』39、51-57 頁、2022.3

⑷　学会発表

国内、村和明、「近世巨大商家の遊廓利用制度―男性集団の性と階層」、遊郭研究会、2021.9.23

⑸　啓蒙

国立歴史民俗博物館編、『展示図録　性差（ジェンダー）の日本史』、歴史民俗博物館振興会、2020.10
村和明、「三井八郎右衛門宛寺井庄右衛門起請文」、日本古文書学会編『古文書への招待』、勉誠出版、2021.2

⑹　会議主催（チェア他）

国内、「第 118 回史学会大会」、実行委員、日本近世史部会、東京大学、2020.11.8
国内、「第 119 回史学会大会」、実行委員、日本近世史部会、東京大学、2021.11.14

3.　主な社会活動

⑴　他機関での講義等

非常勤講師、東京女子大学、「歴史文化演習I」、2020.4～2020.9、2021.4～2021.9

非常勤講師、東京女子大学、「4 年次演習」、2020.4～2020.9、2021.4～2021.9

非常勤講師、東京女子大学、「歴史文化演習II」、2020.10～2021.3、2021.10～2022.3

⑵　**学会**

国内、日本古文書学会、学術雑誌編集委員、2020.4～